

駒澤大学創立九十周年記念号発刊に寄せて

経済学部長 吉澤文男

昭和47年10月15日 駒澤大学九十周年記念式典が行われた。正確な史実によれば、文禄年間駿河台で「旃檀林」として発足以来実に381年目に当るといふ。その永い歴史の流れの趣くところに従い幾度か転形して今に至っているのである。昭和24年、新制大学に移行する際、仏教・文学二学部のほかに総合大学への展望をもつて商経学部が併設された。爾来、決して平坦ではなかったが関係者一同の並々ならぬ努力により一路発展を辿り、途中「経済学部」と改称し大学院も設置して今日におよんだ。本学部の発展を軸として、その後、法学部と経営学部が増設されさらに短期大学を加えて、五学部一短大を擁する総合大学となり、形式内容とも充実し年々力強く成長してきた。

当初、研究業績発表誌として全学的に年一回『駒澤大学研究紀要』を発刊するにすぎなかったのだが、本学部の充実とともに別に独自の研究論集を年数回定期刊行し、なお伝統を尊重して経済学部研究紀要を継続してきたのである。

この度、全学的に記念事業の数々が計画されたのだが、本学部においてもその一つとして、記念論文集をこの『紀要』として刊行することになった。

多難であった23年の歳月がこの学部の性格を鍛えあげ、老練新鋭多彩な教授陣が、文字通り和して同ぜずの風をもって教育に研究に共励し、伸々と和やかにその業績が競われている。そしてこの論文集の計画が発表されるや、予期以上の多数の執筆申出であってこのような盛況となり、それだけに編集委員諸氏の苦勞も多く、学校当局の理解にまつところも大きかったのである。幸に計画通り発刊の運びに至り、感謝にたえない。この上は、広く同学各方面の方々の忌憚なきご批判とあたたかいご激励を期待する次第である。